

WIN CONCORD
WIN コンコード

NEWSLETTER

2020
vol.30



30 万人時代の留学生

和歌山大学名誉教授 永野基綱

コロナウイルスによって、世界中が大変な事態に直面しています。今や 30 万人を超えるまでになった留学生の中には、帰れない、来られない学生も大勢いるでしょう。

WIN コンコードが発足した 1991 年当時の留学生は、全国で 2 万人余りでした。80 年代までに、日本は世界第 2 位の経済大国になっていました。当時の留学生の多くは、アジア各国から経済先進国日本に来て学び、本国と日本の架け橋になろうという使命感をもった、向学心の強い学生たちでした。彼らは、家族から遠く離れて、4 年間、異郷での不安な生活を頑張らねばなりません。そのような留学生が困ったときに頼れるようにと、WIN コンコードの支援が始まったのです。

しかし、WIN コンコード発足の 91 年は、日本経済の最盛期が終わり、バブル崩壊が始まった年でもありました。その後の 30 年は、日本経済の停滞と、中国、アジアの急速な成長が際立っています。

この 30 年で、留学生数は 10 倍以上になりましたが、それは、日本の政府が、例えば国費留学生を 10 倍に増やしたりしたからではありません。また、各大学が、例えば留学生宿舎を 10 倍大き

い会館に建て替えたりしたからではありません。留学生が飛躍的に増加したのは、日本政府や各大学の受け入れ体制の充実化よりも、グローバル化を背景に、中国をはじめとするアジア各国の著しい経済成長で、気軽に留学してくる学生が増えたからです。

今、日本へ来る留学生たちは、先進経済大国に学んで帰ろうという使命感などよりは、関心のある隣国に留学体験してみたいという気持ちの方が勝っているようです。4 年間学ぶ正規学部留学生は増えずに、短期の交換留学生が増えたことは、そのことの現れでしょう。

もちろん、昔と変わらない学生もいますが、もっと肩の荷が軽い学生が多くなっています。生活面でも、今も困っている学生もいますが、多くの学生は、昔のように困ってはいません。SNS で毎日のように家族と話すことができますし、気軽に国に帰省したり、家族が観光を兼ねて会いに来たりもします。困った時の対処法や地域の情報も、簡単にネットで入手できます。

留学生にとって、地域の支援が大変ありがたいものであることはいうまでもありません。しかし時代は変わりつつあります。在住外国人が 300 万人を超え、外国人が当たり前の隣人になりつつある今、留学生たちが、地域の人々に何をしてほしいのか、ほしくないのか。どんな風に関わりたいのか。支援や交流のあり方をどのように対応させてゆくべきなのか、改めて考えさせられます。



現代の日本文化の武器: アニマンガ

ナタシャ (インドネシア)

私の初めての漫画は小学校の時に読んだ「ドラえもん」の一冊だった。それから私は日本のアニメや漫画の恋に落ちたかのように、高校を卒業した時には自分の漫画を作り始めた。そして、その情熱と夢で満ち溢れていた道を続けるため、私は日本語日本文化が学べる大学を選んでここ和歌山までたどり着いた。その最初の一冊が一生の恋人のようになった。

大学で出会った色んな人の中にも、やはり私のような学生が多かった。彼らにも人生を変えた最初のエピソードや最初の一冊がある。

この現象は私の国だけの話ではなく、世界中の人々が今日本のアニメや漫画（以下「アニマンガ」と記す。）に惹かれている。内閣府が公表した「なぜ日本に興味を持ったのか？」という問いの回答の75%が「アニメ・漫画・ゲーム」であった。

なぜアニメはこれほど魅力があって人々の心を捉えるのだろう。

アニマンガの魅力を分析するため、Andrew C. McKevitt は「“You Are Not Alone!”: Anime and the Globalizing of America」と呼ばれる論文を書いた。彼が見つけたのは、ヨーロッパやアメリカではアニメーション映画・コミックは子供向けだけのメディアであったが、日本のアニマンガは子供向けだけではなく大人向けのほうが多いメディアであった。そのため、もっと大きなファンベースを作ることができる。道徳・社会・人間関係・精神疾患といった重いテーマは、普段アメリカではアニメーションの中には見つけられないものだが、日本ではその概念を中心とするアニマンガが多い。

その例としては、今アメリカやヨーロッパで一番著名なアニメーション会社はディズニーである。その会社が作ったアニメーションは「Frozen（アナと雪の女王）」や「ライオン・キング」のような子供向け映画だった。その会社を日本の一番有名なアニメーション会社、株式会社スタジオジブリと比べてみよう。最も対照的なのは、スタジオジブリが1988年に作った「火垂るの墓」というアニメーション映画である。この映画は戦争後の二人の子供の難渋の話である。アニメーションではこれまで見たことがない悲劇の物語であった。

この見たことがない現象と共に、見たことがない文化と生き方を見せたアニマンガは、まるで他

Q あなたが日本に興味を持ったきっかけは何ですか？（3つ選択）

日本に興味をもったきっかけ	欧州	アジア	北米
アニメ・マンガ・ゲーム	75.00%	56.00%	23.15%
映画・テレビ番組	12.00%	24.06%	11.11%
俳優・芸能人・アイドル	9.00%	21.23%	2.78%
セレブ・有名人等のインフルエンサー	0.00%	0.94%	0.00%
音楽	27.00%	28.30%	10.19%
ファッション・美容	11.00%	10.85%	5.56%
アート・デザイン	7.00%	7.08%	12.98%
ライフスタイル	13.00%	10.38%	18.52%
自然風景	10.00%	20.28%	16.67%
日本食	24.00%	22.17%	27.78%
観光	12.00%	25.00%	23.15%
歴史（神社・仏閣等の建築物を含む）	23.00%	5.66%	21.30%
伝統文化（茶道・歌舞伎・日本画等）	23.00%	14.15%	16.67%
伝統工芸品（陶磁器・漆器・織物等）	6.00%	1.42%	6.48%
日本独自の精神文化（禅・武士道・わびさび等）	9.00%	0.47%	12.98%
科学技術	6.00%	10.38%	9.26%
スポーツ	0.00%	0.94%	0.93%
日本製品	3.00%	8.96%	10.19%
学校教育	3.00%	8.02%	3.70%
日本の歴史や語学などの学び	11.00%	11.79%	12.04%
仕事	0.00%	4.72%	4.63%
その他（自由記入）	3.00%	1.89%	10.19%

の世界を見せたようなメディアになった。

現在のインターネットでは、日本文化はすっかり受け入れるようになった。それが一番わかるのは、「先輩」とか「大好き」などのような日本語言葉が頻繁に使われている。その他にも「Arigathanks gozaimuch（ありがとうございます+Thanks very much）」や「Shinidie（死にたい+die）」のような英語と日本語が混じっている言葉も使われている。この日本文化の広がり、紛れもなくアニマンガの影響を強くしたのである。その影響は外国人にとって、最大の日本語と日本文化を学ぶ理由になった。私もその中に含まれている。しかし、それだけではない。

Swenson (2007) の観測データによると、外国で日本文化のイベント行われていても、人々は「日本古典文学」や「日本歴史」や「伝統的な芸術」などに興味あまりないのだ。「日本文化」と言えばアニマンガやゲームか武道だけだというのが現在の人々の考え方だ。アニマンガをもっと優先的に使う道は限りがない。その一つの例は、「刀剣乱舞」という刀の擬人観をメインにした携帯ゲームは、世界中で大人気になった。2019年にそのゲームのファン達は7,975万円を集めて、大阪の「石切剣箭神社」に住んでいる「石切」という昔壊れた刀を復活させることができた。それだけではなく「相槌神社」と呼ばれている京都での小さな神社が、「髭切」と「膝丸」という刀を作った場所だということがインターネットにアップされると、ファンたちからたった5時間でその神社のために74万円を集めることができた。

このような例は一つだけではなく、このグローバル化時代にはアニマンガの力はペンよりも、剣よりも、銃よりも何倍も強い。人々の心を動かす強制力がなくても、人々を感動させる日本文化の無限の可能性である。

失われてゆく心

ホリミルザ（ウズベキスタン）

もしかしたら、世の中の技術が私達の心を冷たくしてしまったのでしょうか。

全て昨日の事のように覚えています。その日の出来事は人間性について考えさせられました。大学の帰り道、音楽を聴きながら歩いていました。ドーン、ドカン。音楽をかき消す激しい音。それはかなり速いスピードの車がぶつかった音でした。近くで事故が起きたのです。大変だと思って急いで走って行くと、道の真ん中にある鉄の柵をあちこちに投げ飛ばして、ひっくり返った車が2台ありました。その周りにはたくさんの人が集まっていました。そして手には携帯電話を持って、誰もが事故の写真やビデオを撮っていました。

3～4人でこわれた車の窓ガラスを割って、けがをした人を助けていましたが、他の人達は事故の様子をインターネットに載せる事に夢中になっていました。私のそばで写真を撮っている男の人に「車の中にいる人を助けよう」と言うと、「俺はいいよ、行かない」と言いました。私は辛い気持ちでもう一台の車へ走って行きました。私と何人かの人で若い女性とお母さんを助け出しました。

人の命をこのように扱っていいのでしょうか。一刻を争う事態を、携帯電話で一瞬にしてインターネットに載せてしまう、その行動。助ける事よりも先に、人の不幸を広めることが楽しいのでしょうか。彼らには血も涙もないのでしょうか。ボタン一つで全世界の人につながる。知らせたい事を一瞬で知らせることができる。インターネット社会とハイテクな技術はとても素晴らしいと思います。そして現代の企業活動や生活には、インターネットやハイテク技術なしでは不便な事が沢山あります。だからと言って、このように悲惨な事故や喧嘩、恥ずかしいことなどを広めるのは良いと思えません。

直接会話をしなくても言いたい事が通じることや、客を案内するロボット、人間の代わりに掃除してくれるテクノロジーなど、確かに恩恵を受ける事もあります。

しかし、私も皆さんも便利だと思って気が付いていないこともあるのではないのでしょうか。身近なことでは、授業中、板書された内容をただスマホで写真に撮ってノートに書くという事はあまりしていませんね。先生が熱心に説明している間、



知らない言葉が出てくると、学生たちはすぐグーグルで調べています。技術やインターネットが普及したために、私たちは頭で考えなくてはならない事をしなくなってきました。自分で出来ることなのに、何も考えないで機械に任せていることも少なくないと思います。

ハイテクなロボットは人間の形をして、人の言葉を話しても、実は優しい愛情や人のぬくもりを感じ取ることができません。頭と心を使わなくなったら、人ではなくてロボットになっていくのです。機械で何でも出来てしまう便利な今、生きている人間の心もロボットにあやつられているような気がします。

私たちの日常は、機械やハイテク、ロボットに囲まれています。それらを便利に使って、いつの間にか技術の発展によって人間が減っていく。これこそが、まさに悲劇です。今こそ気づかなければ、これから世の中はどのようなのでしょうか。今、何とかしなければなりません。このままでは大変なことになります。

長年に渡って私たちの祖先が築き上げてきた人間の社会が、ハイテクノロジーの恩恵を受けるところか、破壊されようとしているのです。機械やロボットにはない、人の優しさや思いやりの心は決して失いたくないものです。

皆さん、今からでも遅くはありません。皆で、この悲劇を止める努力をしましょう。

第17回学長杯留学生によるスピーチコンテスト

2019年12月14日和歌山大学で開催されました。現在、和太には約150名の留学生が在籍しており、県内全体では300名を超えています。「失われてゆく心」は優勝されたウズベキスタンからの日本語・日本文化研修留学生ホルミルザさんのスピーチです。

ブラジルと日本のコンクリート

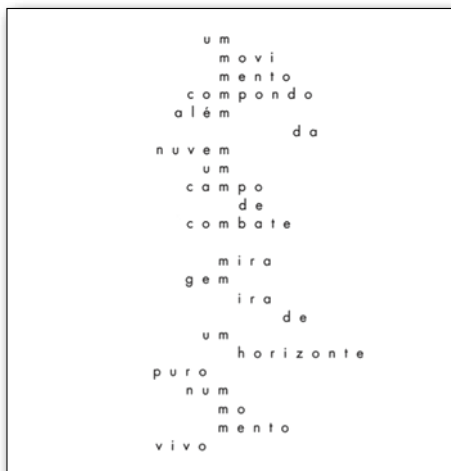
ポエトリー

ルジミラ (ブラジル)

1953 年頃、ヨーロッパのスイスと南米のブラジルでコンクリート・ポエトリーという概念が生まれ、数年後、北園克衛と新国誠一により日本でのコンクリート・ポエトリーが生まれた。

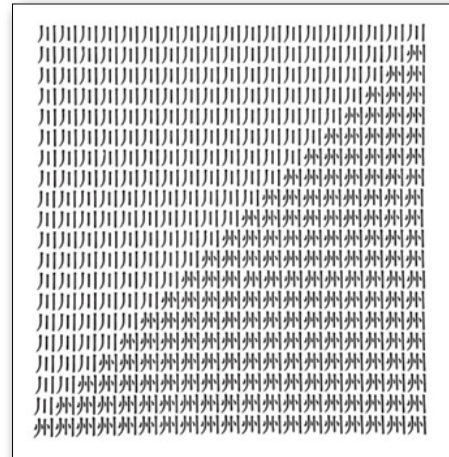
日本語で「具体詩」と呼ばれるコンクリート・ポエトリーは文字の姿態に着目し、読むことに限られない、視覚にも訴える詩を制作するものである。このポエトリーは、第一次世界大戦中にヨーロッパやアメリカで起きた芸術運動のダダイズムと緊密な関係があり、バルという詩人が中心的にコンクレティズムを先駆的に主導し、抽象に対して具象を掲げるこの運動は 1930 年に現れた。数年後、1950 年代初頭にオイゲン・ゴムリンガーというスイスの詩人が『星座』という詩集を刊行したことで、詩の世界で「具体芸術」の理念が生じた。

ゴムリンガーはブラジルのノイガンドレス派のデシオ・ピニアタリ、オウグスト・デ・カンポス、アロルド・デ・カンポスとともに、『星座』のような詩実験を「コンクリート」と呼ぶことに同意した。折しも、こういった詩実験は国際的な影響をもち、各国にこのような芸術運動が起きた。ブラジルでは、このポエトリーは 1956 年にサン・パウロの近代美術館で行われたコンクリート・アート国立展覧会を通して広がった。



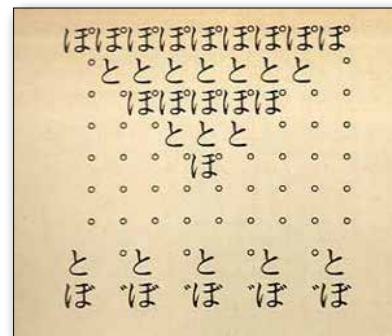
一方、日本の具体詩は新国誠一により確立された。戦後日本のコンクリート・ポエトリーの運動は彼から始まったと言える。新国とともに、北園

克衛が「VOU」という雑誌を発刊し、具体詩の宣伝に一役買った。新国誠一は、フランスのコンクリート・ポエトリーの魅力と本質を探るうちに、日本での具体詩の可能性に気づき、それを展開して、現在でも日本のコンクリート・ポエトリーの第一人者とみなされている。漢字を基本とし、「川または州」のような作品が作られている。



「川または州」作者：新国誠一

ブラジルで使われるアルファベットでもコンクリート・ポエトリーを楽しめるが、日本で使われる仮名、漢字や記号などを用いた作品は何よりも楽しい。擬態語・擬音語を用いた作品からもういった楽しさが見られる。ここに日本のコンクリート・ポエトリーの魅力が生まれているのではないだろうか。



「ぽととととと」作者：向井周太郎

世界の様々な民族が使っている、あるいは一昔前使っていた文字と表記、またはその表記などから派生した文学、文化や歴史に関心を深め、今後、自国でもブラジルのコンクリート・ポエトリーと日本の漢字を照らし合わせたい。具体詩のパーセプティブから日本の漢字の組み合わせや意味などを調査し、どのような関係があるか、そして漢字はどのように考えられたのか明らかにしたい。

和歌山で過ごして

ナヨミ（フランス）

皆さんこんにちは。フランスから来たナヨミと申します。和歌山に着いてからもう数ヶ月です。WIN コンコードと和歌山大学のおかげで、地域の多くのところを発見することができました。

ここでの生活はとても穏やかで、私が来る前に想像したとおりです。WIN コンコードは、私たち留学生に対して大いに助けてくれる団体です。彼らの手伝いがなければ、私たちの留学生活がどれほど退屈であったか想像できません。コロナウイルスのせいで今年は花見が中止されたのが残念です。これは、私たちの計画していた活動に与えた影響を考えると、誰もが覚えている年ですね。

一番印象的だったのは、白浜での一日でした。私のホストファミリーは、京都か県南部の白浜のどちらへ行きたいかを聞いてきました。私達はいつもの観光地では知る事のできない海沿いの景勝地を希望し、満場一致で行くことにしました。ダニエルと神戸大学に留学をしているフランス人の友達に加わりました。

11月は素晴らしい月でした。日本の田舎は素晴らしく何より色鮮やかです。ここでは、秋が私の好きな季節だと思います。クレメンタイン（日本のみかん）の生産量日本で知られる有名な町、有田を通りました。どこを見てもオレンジ色の小さな玉が景色を満たしていました。まるで印象派の絵のようでした。私たちは、少なくとも美味しいクレメンタインを食べるのを止めることができませんでした。正真正銘の日本を見たのは初めてだったかもしれません。景色は素晴らしかったと思いました。



白浜に着くと魚市場を訪ねることができました。海岸はとてもきれいでした。断崖絶壁が印象的で、お寺も断崖絶壁に位置しており、仕上げには有名な「崎の湯」の露天風呂に入ることが出来ました。

日本の秋がこんなに楽しいとは想像もしていませんでした。ホストファミリーの皆様、楽しい所に連れて行ってくれてありがとうございました。

忘れられない思い出です。

孟 廷威（中国）

異文化コミュニケーションの中で、学問を身につけ、見聞を広めることができます。また、異なる国の人と交流することによって、別の思惟で物事を認知することも大事です。このような気持ちで留学の旅に出ました。

和歌山に来たばかりの頃を思い出せば、本当に大変な一時でした。マクドナルドの店員さんの言葉さえも分かりませんでした。新しい生活環境は新しい挑戦を意味します。最初の猫の手も借りたい気持ちから今の余裕までを考えると、留学は私たちの能力を鍛え、語学力を向上させるだけではありません。人と生活の関係を意識することもできます。学んだ知識は生活から由来し、また生活に戻って行きます。この私たちの心の中ではっきりと分かっている哲理は、異文化交流を通じて、その意味の深さをより理解できました。

更に強いイメージを与えてくれたのは、和歌山の人々の情熱と親切さです。和歌山の皆さんは、私の故郷の人たちに似ているから懐かしい親近感があります。何か困ったことがあったら、彼らはすぐに助けてくれます。私たち留学生はWIN コンコードの皆様に誘われて、八朔祭りや花見などいろんなイベントに参加しました。普段もいろいろお世話になり感謝しています。

WINのおかげで和歌山の素晴らしさを感じ、とても幸運だと思います。紺碧の空の下で波が輝いている海、満開の桜に隠れている夕陽、雨音に打たれた紅葉、それらは生涯忘れられない画面です。自然に恵まれている和歌山の魅力は、歴史に満ち溢れる人文景観と自然風景の結び合いにあり、逆にその自然のにぎわいと世界遺産の静謐は、まさに和歌山の神秘的なところだと思います。

あっという間に和歌山での半年間を暮らしました。様々な人と出会い、様々なことを体験し、たくさんの思い出を作りました。今の私は、和歌山に来てよかったと確信しています。

イズヤン（マレーシア）

まるで昨日のことのよう日本へ来た時のことを覚えています。和歌山大学に入学してから2年間、その間にいろいろなことを経験して、いろいろな人と出会って来ました。4年前高校を卒業したばかりの私は、全く日本語が分からず、平仮名から勉強を始めましたが、今こうして日本で勉強していることが夢のようです。

私は子供の頃から日本に興味があり、ここで勉強ができたらいいなと何回も思っていました。最初は無理だと思っていましたが、頑張っ勉強したおかげでマレーシア政府の奨学金を受けて日本に留学することができました。私は旅行が好きで、いろいろな場所へ行き、異文化を理解して、世界を様々な角度から見られるようになりたくて観光学部に入学することにしました。

和歌山大学は私が思ったより小さくて、美しいです。大学での勉強は面白くて、先生たちも指導力がある方々だと感じます。

今、私は観光学部のGPというプログラムに参加しています。GPの授業は英語で行われますが、私は日本語力も必要だと思っているので日本語で行われる授業も受けて、どちらの言語力も徐々に上達させることをねらっています。それだけでなく、フランス語も大学で習っています。

大学生活では、常に新しいことに挑戦していると感じます。一人で生活するのは初めてで、自分でやらなければならないことが多くて、不安でしたが、先輩たちや観光学部サポートオフィスの方々などのおかげで日々の生活を安心して送ることができています。日本人の友達もすごく優しく、たくさん日本社会のマナーを教えてくださいました。今は日本での生活にますます慣れて来て、楽しく過ごすことができています。



2019 年度 活動経過

4月	6日	新入生歓迎お花見	和歌山城
4月	9日	ホストファミリーBBQ会	会員宅庭
5月	25日	WINコンコートニュースレター29号発行	
5月	26日	第11回NPO法人WINコンコート総会・交流会	華月殿
7月	31日	2019年度アジア・オセアニア高校生フォーラム参加ホテルグランヴィア和歌山	
9月	29日	第28回故郷を語る集い（後期新入生歓迎会）	WIN事務所
11月	24日	大学祭模擬店協力	大学キャンパス
12月	1日	和歌山サンタラン	和歌山城内
12月	19日	卒業生来和・歓迎会	
12月	21日	お餅つき	新堀こども園
12月	22日	八朔狩り鍋パーティー	紀の川市WIN事務所
1月	3日	お正月初詣新年会（鍋パーティー）	紀三井寺、日前宮WIN事務所
2月	11日	会社見学懇親会	株島精機製作所がんこ六三園
2月	12日	那智方面観光	
3月	31日	卒業生を送る会	WIN事務所

年間

- ・就職活動に向けた勉強会
- ・生活関連の情報提供や支援
- ・生活用品の貸与
- ・ホストファミリーとして支援

時を越えて届いたもの

和歌山大学中国人留学生OB・OGの方々からたくさんのマスクがWIN事務所に届けられました。日本ではマスクがなかなか手に入らない実情を知り、3月からグループでまた個人で多くの元留学生達を送ってくれました。

1990年代から最近卒業した留学生の名前が記されていて、皆さんの懐かしい顔が浮かんできました。一緒に楽しんだサマーキャンプ、スキー、ぶんだら踊りなど数々の場面が思い出されます。WINコンコート設立以来30年間の卒業生が繋がっていることが分かり、胸が熱くなりました。

留学生の状況は時代と共に変わりますが、留学生の声に耳を傾け対応していきたいと思います。

卒業生の皆様、温かいお心遣いを頂き有難うございました。心から感謝申し上げます。

新留学生紹介

タイン（ベトナム）

ハノイ工科大学メカトロニクス学部から参りましたグエン・チュン・タインと申します。

私は子供の頃から日本のアニメや映画が好きで、ずっと日本人にも日本の文化にも懂れています。例えば、お花見とか、豆まきとか茶道などの日本の文化はとても好きです。

特に、むかし日本の映画で見た武士道スピリットは、日本人が常に目指している粘り強い生き方と決意のあるライフスタイルの理想のようなものです。私はそのスピリットに懂れて、常に武士道精神を目指しています。

留学生になり、日本へ行って学ぶのは私の夢でした。そのためハノイ工科大学ツイニング・プログラムを選んで、2年半努力し和歌山大学システム工学部に編入できました。

和歌山は気候がよくて、農産物も豊富でいろいろ美しい風景が見られて、とても素晴らしい所だと思っています。

和歌山大学は学術的に有名で、毎年多くの留学生が来て知識を学び、交流できる素晴らしい学校だと思います。そんな学校で学びたいと思い、私は和歌山大学を選びました。

専門知識を学ぶだけではなく、日本人についてもっと理解するため、日本文化も共に学びたいと思います。更に、大学を卒業したら大学院へ進学したいと考えています。

その後、就職してから10年くらい日本でエンジニアとして働いて経験を積んだあと、帰国して自分の企業を作るという目標を立てています。

エンフトゥルガ（モンゴル）

初めまして、エンフトゥルガと申します。モンゴルから参りました。もし、難しければ「エンヘー」と呼んでくれてもいいです。どうぞよろしくお願い致します。

私は、和歌山大学のシステム工学部の3年生へ編入しました。編入した学生ですから、すぐ日本人の大学生と一緒に日本語で専門授業を受けることになりました。私はモンゴルで2年半くらい日本語を勉強しましたが、先生の話が分かるかなと心配しています。しかし、親切な日本人のおかげで、この2年間で問題がなく、うれしくて楽しい時を過ごすことができと思っています。

私の興味は音楽を聞くことと旅行をすることです。だから、私はこの2年間で勉強だけではなく、和歌山県の自然の美しさを楽しんで、さまざまなところを旅行しながら、日本の文化と伝統的なスポーツを学ぼうと思っています。また、日本では外国人が多いため、日本人だけではなく他国の人々と友達になりたいです。

私の目的は科学技術が発展している日本で専門的な知識や技術を学び、得た知識をうまく使えるエンジニアになることです。また、卒業後は帰国し、国の発展に貢献することです。和歌山大学に入学したことは、私にとって自分の目的を果たすための一歩だと思います。



アミラ (マレーシア)

はじめまして、私はマレーシアから来ましたアミラです。

私は子どもの頃からアニメやマンガなどが大好きでよく見たり読んだりします。それと共に、日本の他のことにも興味が湧いてきたので、日本で勉強することは私の夢でした。以前は無理な夢だと思っていましたが、ようやく日本に留学することが出来ました。それだからこそ、日本で様々なことをやってみたいと思います。勉強することはさることながら、和歌山あるいは日本にしかできないことを試して経験を積みたいと思います。

季節のないマレーシアで生まれ育ちましたから、日本に行って全ての季節の楽しさを味わいたいと思います。その上、もちろん冬などの大変さも経験したいです。

本当は、私が一番やりたいことは神社やお寺に行くことです。それと、日本では一年中たくさんの祭りが行われていますので、是非行ってみたいです。

他にも色々やってみたいことがあります。例えばアルバイトをしたり、日本人や他の外国人の友達をつくったりしたいと思っています。

バヤンドゥーレン (モンゴル)

はじめまして、モンゴルから参りましたバヤンドゥーレンと申します。

ニックネームは「バヤナー」です。この学年から和歌山大学のシステム工学部に編入しています。どうぞ宜しくお願い致します。

皆さんモンゴルという国を知っていますか。ほとんどの外国人はこの質問に「あっ!チンギスハーン」と答えます。でも、日本人には「朝青龍」と「白鵬」の母国と知られていると思います。去年はWIN コンコードの皆さんにモンゴルというと、まず「アリウンサナー」先輩の母国と考えられる一年だったかなと思います。だから、モンゴルというと「バヤナーさん」の母国、日本というと WIN コンコードの皆さんを思い出す二年間を過ごしたいです。

しかし、今は新型コロナウイルス感染拡大で、すべての人々が健康に注意する時間になって、危機に陥っている国も多くなっています。そのため、日本へ入国できなくて、授業開始日に間に合わないかも知れないと思って心配しています。それでも、日本での留学生活を楽しんで待っている私にとって WIN コンコードの皆さんと会う幸せの日が来るとしています。



バズ (マレーシア)

私は小さい頃からアニメを見て感動していました。この人たちはとても素晴らしいと思います。

私は日本に行って、まず日本人と友達になりたいなと思っています。そのため、色々な活動に参加して新しい関係を結びたいと思います。なぜなら、それは私の夢と関係があります。私は人の態度とか、どのような行動を取るかということに感心を持っています。

活動と言えば、できれば弓道部に入りたいと思います。このようなスポーツはマレーシアにありませんので、経験できたらいいなと思います。外国人の私にとって、これが最初で最後のチャンスだと思います。

それから、私はマレーシアの文化を日本人に紹介したいです。それだけでなく、ムスリムのことも日本人に説明したいです。なぜなら、マレーシアのことを知らない人もたくさんいます。

日本の季節は四季があるから、いろいろなことが感じられます。例えば花見とか、スノーボードをすとかです。日本の夏も楽しみです。花火大会を最低でも一回見たいです。

WIN コンコードの皆さま、これからよろしくお願いします。

ダニ (マレーシア)

初めまして、私はマレーシアから来た和歌山大学のダニです。私の特別準備コースプログラムの規制は、私だけ和歌山大学に入ることになって、一人ぼっちです。だから日本に着いてから、友達とか先生と仲良くできたら本当にありがたいことです。もしかしたら、彼女もできたら大喜びです。

日本は様々な文化と素敵な景色が有名ですから、いろいろなところに行きたいものです。それに、日本は四季があるので、経験したことのない季節も楽しみです。スキー場へ行ったり、お花見

をしたり、紅葉の景色を背景に写真を撮ったりしたいです。確かに、和歌山は静かな場所で自然もたくさんあるので、いろんなところを冒険してみたいという希望があります。

日本で共にたくさんの体験をして、生活を楽しみましょう。

オユンノミン (モンゴル)

初めまして、オユンノミンと申します。難しいければノミンと呼んでくれても結構です。

私の趣味は旅行することです。なぜかと言うと、私はモンゴルで一番長い川「オルホン川」が流れるオルホン渓谷で生まれました。オルホン渓谷では、先史時代からモンゴル帝国の時代まで、二千年以上にわたり様々な遊牧民がこの地を拠り所としてきました。オルホン渓谷に残る遺跡の中で最も大規模なものは「カラコルム遺跡」です。カラコルムは13～14世紀にモンゴル帝国の首都が置かれたところでした。

また、ここには「エルデネ・ゾー寺院」というモンゴル最古のチベット仏教の寺院があります。102の仏塔が400m四方の城壁に沿って並び、境内にはさらに巨大な仏塔「ソボルガン塔」や中国様式の伽藍もあります。

私は旅を通じていろんな地域の歴史を知る事が好きです。

私の家族は六人で父、母、兄、姉、弟と一緒にモンゴルの中央部に位置するウブスハンガイ県に住んでいます。

モンゴルの科学技術大学から和歌山大学のシステム工学部の三年生へ編入しました。編入学生ですからまだ分からないことも多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、日本人の学生と同じように頑張りたいと思います。本当に親切な和歌山県の人々のおかげで、楽しくてうれしい留学生活が送れそうです。



私の目的は、日本の優れた技術を習得して帰国し、母国での技術を改善したいです。

また、この二年間で自分の将来に向かってしっかり勉強して、たくさんの友達を作って、大学生活を楽しみながら、休みの日を利用して和歌山県の観光地を見てまわり、日本の様々な文化を学びたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

イザ (マレーシア)

私はイザです。マレーシアから来ました。ジョホールバルの出身です。趣味はドラマやアニメのライブアクションを見ることです。

日本に行くことは初めてなので、分からないこと、知らない場所がたくさんあります。留学すれば、違う雰囲気です。新しい勉強をすることが出来ます。私は自信がそんなに多くありませんが、新しいことに挑戦してみたいです。

日本で勉強したら日本語が上達できるだけではなく、新しい文化や生き方も学ぶことができます。だから日本に留学することにしました。これから勉強を頑張るつもりです。

日本にいる間、日本人と友達になったり仲良くなったりしたいです。そして、友達と一緒に伝統的な所とか、有名な所とか、観光地を旅行したり遊園地へも遊びに行ったりしたいです。美味しい食べ物も食べたいです。日本での生活を楽しみにしています。

タオ (ベトナム)

はじめまして、和歌山大学経済学部の一学年のタオと申します。

私の出身地はベトナムの首都（ハノイ）から約50km離れたフンエンという場所です。そこでは、山もないし、海もないので、日本に来て自然が豊富なところに住みたいです。

それで、和歌山市に引越しました。今は、毎日、起きて、窓から山を見えるので、本当に嬉しいです。

日本に来てから、初めてのことが多いです。初めて一人暮らしし、一人で病院に行き、そして、アルバイトではじめてお金を稼ぎます。最初は大変でしたが、時間が経つと少しずつ成長できるようになりました。

今年、新型コロナウイルスで、普通に大学に行けないし、皆さんと交流もできません。

コロナが終わったら、ぜひ会って友達になりたいでしょう。

シンプルな愛

理 事 松島 智

私のこれまでの人生で最良の思い出の多くは、WIN コンコードのメンバーとして活動していたことです。

今から遡ること約 30 年、私は和歌山大学の留学生達との交流が始まりました。この会に入会した理由は二つあり、まず一つは家族が和歌山大学の卒業生であったこと、もう一つは、その頃娘がアメリカ・カリフォルニア州の高校に留学しており、ホストファミリーはじめ現地の人々との親しい交流が最大の喜びとなっていた事から、「日本に来了留学生に沢山の思い出を持たせてあげてほしい。」と言う娘のひと言がきっかけとなりました。

私は外国語も話せないので、最初はどのように対応すればよいか躊躇しましたが、とにかく、日本という国を選択して来てくれた学生に日本の文化、習慣、四季、そして日本の家庭生活などを紹介することから始めようと思いました。とは言うものの留学生たちは初めて日本に来て、見たり、聞いたり、総て初体験なので緊張のあまりなかなか打ち解けるまでには時間がかかりました。

そんな中、ホストファミリーになる事で身近な付き合いが始まり、学生は安心しリラックスしてくるようになって来ました。そして決まった学生だけでなく、誰でも日本の家庭を知りたい、見たいと思う学生を幅広く家庭に招き、日本食を一緒に作ったり、食べたりすることで日本というより和歌山の地域性を学んでいってくれました。

最初にホストファミリーとして受け入れたのは、フィリピンの女性の留学生でした。初めは一人だけで来ていましたが、その内友人も一緒に来るようになり、次第に親しみが増して宿泊していくようにもなりました。しかし、その頃は今のようには携帯電話などはなく、ある日の夕方、突然その彼女が訪問して来ました。玄関のチャイムが鳴り、出て行くと寒そうに身を縮め泣いている姿が目に見え込んできました。私は急いで家の中に誘導しました。彼女は唯泣いているだけで何も話すこともなく、私は暫く途方に暮れていましたが、「今、夕飯の支度をしているので一緒に作りましょう。」とキッチンへと促しました。その日のメニューは「天ぷら」でしたので、材料の説明をしながら作りはじめました。彼女は、その時初めて「天ぷら」という日本の食べ物を見、作り、味わってとても



感激した様子でした。そうした自然の触れ合いの中で、彼女は涙の原因をポツポツ話しはじめたのです。その夜、我々家族と一緒に食事をして団欒の後、彼女をマンションに送って行く途中、車中で彼女は「悩んでいた事の結論が出た。」とポツリと言いました。その時私は、これこそがホストファミリーの役割を果たせたと安堵したものです。

又、これとは別にこんな留学生の言葉も聞きました。中国からのある留学生は、「勉強時間よりバイトの時間が多く、それで儲けたお金で家財道具を買い揃えた後で、先輩から WIN コンコードの支援について教えてもらった。だから私のような苦勞をさせない為にも後輩が入学したらすぐに WIN コンコードの色々なサポートについて教えてあげる心算です。」 私達は留学生から何も求めず、唯純粹に縁あってこの地に来了学生を勉学のみならず、留学生活において多くの経験をしてほしいと念願するのみです。

娘は英語に加えアメリカでの生活をも学び、帰国後もずっと支えて下さる地域の人達と今なお交流が続いているように、私もまた帰国した元留学生との交流を大切にしています。そのお陰もあり、約 30 年過ぎた現在も自国で活躍している元留学生から招待を受け、外国に行って長期間ホームステイさせてもらったり、家族連れで訪日を機にわざわざ和歌山を訪ねてくれたり、嬉しい再会も幾度となく体験しました。以前は「お母さん」と呼ばれていた私も、今では元留学生の子供は、私のことを「和歌山のおばあちゃん」と呼んでくれています。これこそ真の国際交流ではないでしょうか。

そして現在、世界中で「新型コロナウイルス」の恐怖が叫ばれている中、世界各国から「和歌山は大丈夫ですか？」と優しいメールやラインが届きます。私は、今以てこの活動に参加出来ているのは WIN コンコードのメンバーになれた事であり何よりも誇りに思っています。

(株)島精機製作所見学会

劉 楊銘 (中 国)

株式会社島精機製作所は、和歌山市内に本社を置くニット機械製造販売メーカーである。公式サイトでは「総合メカトロニクス企業」を謳う。

創業者は代表取締役会長の「島 正博」である。同時に株式会社島精機製作所は、「みどり会」の会員企業であり三和グループに属している。

今回の株式会社島精機製作所現場見学会では、会社理念と発展過程及び現場監督のことについて、たくさん勉強することができました。最初に訪れた島精機製作所本社では、まず外観・内観ともにデザイン性、それに伴った機能性に驚きました。建物の中には幅広いジャンルの施設があり、特に玄関ホールには二台の「フェラーリ」と等身大の「北極熊」が飾ってあり、独特な内観のデザイン性と共に、見た瞬間に仕事に対するやる気が湧いてくる気がしました。

次に行った所は、大きなホールで島精機製作所の説明会場でした。一人の現場監督の方が詳しく説明して下さいました。特に会社の完全無縫製横編機の開発は本当にびっくりしました。普通の横編機は作業中にたくさんの原料を浪費するけれど、島精機製作所の完全無縫製横編機は、生産過程中に素材の浪費とか無駄が全然なかった。環境に優しい理念は凄く良い事だと思っています。

最後に行ったのは工場内部の作業現場の見学で、作業の流れを教えてくださいました。その話の中で驚いたことは、コンピューターだけで製品の完成品が本物の完產品のような画像で、生産する前に見ることが出来ることです。そして、最初から最後まで、完全な製造計画を当初にしているということです。製造計画というものは、精密なものだ



と改めて思いました。

今回の現場見学ではいろいろ学ぶことが多く、とても良い経験をさせてもらいました。

八朔狩りと鍋パーティー

劉 育伯 (中 国)

いよいよ待ちに待った八朔狩りの日がやってきた。私達は午後零時頃 WIN の先生の車に乗って集合場所に向った。僕はすごく楽しみにしていて寝不足だったので、少しだけ元気が無かったけれども、先生のおかげで周りの人々と一緒にいろいろな会話を楽しむことができた。そして、アフリカから来ている「エビ」君にも出会うことが出来てとても楽しかった。

集合場所に着いた後、ここで待っていた農園主さんと挨拶した。元々、八朔狩りの時期は少しずれていたかもしれず、頭の中に浮かんでいた景色と少し違った。農園主さんは、私たちをあまり疲れさせないように考えていて、皆に手袋を配って正しい八朔の手摘み方法を教えてくれた。ここから本格的に収穫を始めた。作業はそんなに簡単ではなく、ずっと味見の垂涎に耐えられなかったもので、一個だけ皮をむいて食べてみた。やっぱり酸っぱかった。そのあと農園主さんは果実を摘んだらしばらく経過してからの方が、味はもっと美味しくなるよと教えてくれた。短い一時間だったが、集めた箱は八朔でいっぱいになった。次は、皆で一緒に大根を引き抜いた。そして皆は次の目的地 WIN の事務所へ出発した。

私達が到着する前から、鍋パーティーのために四つのテーブルの上に鍋が二つずつ置かれていた。じゃんけんで四つグループに分かれた。みんなお腹が減っていたから、すき焼き鍋とベトナム鍋が同時に点火され、皆でわいわいと楽しみながら食べた。確かに、寒い時は暖かい鍋を食べることがふさわしく、人と人の距離を近づけることができた。美味しい料理が心と冷たい体を癒していた。でも、その間 WIN の皆さんは私達のためにずっと働いて、料理の材料を提供してくれていた。その後、皆は台所で手作りのケーキを作っていた。ケーキを作るためにいろんな装飾品を用意していたから、初心者でも見た目に美しい、おいしいケーキを作ることが出来た。

この日は本当に充実した一日だった。はじめて八朔を食べた。はじめてすき焼き鍋とベトナム鍋を食べた。はじめてケーキを作った。今後はどんな活動があるかなと、楽しみにして待っています。

熊野へ

干 洪麟（中国）

僕たちは2020年2月12日WINの方に「那智の滝」と「熊野本宮大社」を案内して頂きました。一日だけの日帰り旅行だったけれども、やはり昔の参詣聖地「那智」と「熊野」の綺麗な絶景を見させてもらい本当に満足しています。

那智は熊野古道の最終地として、昔から聖地と知られているだけではなく、周辺の自然風景も昔のまま残っています。大門坂の熊野古道を歩きながら、以前から参詣者を守っている古木と出会ったりして、なんか遙か昔この道を歩いていた人たちの魂が見えるという感じがいっぱい溢れていました。

せっかくこんな神聖なところに行くので、神様に自分の願いをちゃんと申し上げないといけないと思いました。僕らは自分の願いや夢を護摩木に書いて、それを持って神社前庭のモッコクの木の下に入り幹の中を一周して、この一年を無事に過ごさせていただくことを祈りました。

次に、那智で一番有名な「那智の滝」を訪れました。遠くから見ると、ものの哀れという感情が強ければ強いほど高くなるのですが、滝の真下に着いたら本当に衝撃を受けました。まさか龍門のように水が上から飛び散り、岩に当たって雷のような音が鳴っています。有史以来この水の流れは一度も止まったことがなく、また千百年以来、何人の人がこの水の流れを見ていて同じ感慨に耽っているのか。この時、水の前で人間はなんとちっぽけなものでしょうか。

その後、熊野三山の一つである「熊野本宮大社」に行きました。広さは那智より小さいが、中に祭られている神様は古事記に出た「天照大神」や日本



国土を作った「伊邪那美」と「伊邪那岐」などの神様なので、そういう神様に僕らはもう一度敬虔な祈りを捧げました。

那智の旅は短かったけれども、たくさんのが勉強になりました。今回、僕が那智に行ったのは二回目だが、那智は何度行っても新しいものが発見できるようなところだと思います。是非とも那智にもう一度行きたいです。でも、次はいつか。その時の那智は僕の記憶と同じだろうか。多分、那智の止まらない滝の水のように、ただ時間だけが、その答えを教えてくれるでしょう。

日本での生活体験

エイブラハム（ガーナ）

障がい者特殊教育について18ヶ月間の教員養成プログラムを受けるために日本へ行けるとの知らせは、私にとって最高の喜びでした。初めて日本へ行けるという大きな期待に感動しながら、新しい文化を吸収し言葉の壁を克服することを想像してわくわくしました。私はオンラインで日本についての記事を読みましたが、現実の経験はオンラインで知った内容をはるかに超えるものでした。

2018年10月3日、関西国際空港に到着しました。大阪日本語教育センターの英語を話す先生が待っていてくれて、同じフライトできた教員仲間と共に、これから日本語教育を受ける6ヶ月間を過ごす寮に連れて行ってくれました。

学校では入学試験がありましたが、これが私のトラブルの始まりでした。私は、名前以外は日本語の文字を読むことも書くこともできませんし話し方も読み方も書き方もわかりませんでした。幸いにもとても親切で熱心な先生方が日本語のひらがな、カタカナ、漢字の書き方から教えてくれました。金閣寺や嵐山を訪れる機会もありとても素晴らしい6ヶ月の大阪生活でした。

その後、私の教育プログラムを続けるために和歌山大学に移りました。ここでも素晴らしい先生方や友達に出会い、和歌山城や白浜などを見学したり、色々な食べ物を楽しむことができました。日本での生活はとても素晴らしい経験で、又来ることができればもっと長く滞在したいと思います。

日本の人たちはとても親切で素晴らしい人々でした。日本の文化や伝統も独特のものがあって、とても素晴らしいと思います。

お世話になった皆さん、有難うございました。





W I Nコンコード設立趣意書

現在社会は、政治・経済・文化のすべて分野で地球を一つの単位として捉え、はじめて、その機能を十分に発揮しうる状況に至っていると思われます。そして、このかけがえのない地球の責任を担っているのは、たった一つの「種」に留まる「ヒト」即ち人間であり、その一人一人の人間が確立された個として、地球の貴重な構成要素としての役割を果たすことが求められています。民族の違いは、多様な文化の豊かさを示すにすぎず、国境は行政を効率的に行うための境界にしかすぎないのです。

W I Nは、人間の知恵を結集し、愛すべき郷土和歌山が、人間味溢れるネットワーク、Human Active Networkで結ばれた、活性化された地域となるために活動するものです。そして世界各国から勉学の間を求めて留学して来る人々に、より良い環境を整えることは、ひとつの単位となった地球上にHuman Active Networkを構築するうえにおいても重要なことであり、これにより、地球のひとつの地域である和歌山が、世界とダイレクトに結びつき、和歌山の優れた文化が世界に紹介され地球の多様で豊かな文化環境の醸成に寄与できるのではないかと考え、我々は、W I Nコンコードを設立するものです。

NPO法人 WIN コンコード事務局

〒640-8215 和歌山市橋丁23番地N4ビル3F

TEL/FAX 073-426-0798

E-mail ryugakusei@win-concord.jp

<http://www.win-concord.jp>